

# あなたの耳の聞こえ、大丈夫？



- 最近「聞き返す」ことが増えた
- テレビの音量が大きいと言われる

これらは、難聴の兆候かもしれません。耳の聞こえづらさは、人との会話が減ってしまうことなどから、社会的なフレイルや認知症にもつながると言われています。聞こえにくい、耳閉感、耳鳴り、めまいなどの症状があれば程度にかかわらず、早めに耳鼻咽喉科を受診しましょう。

## 難聴とは？



音が聞こえにくい、言葉が聞き取りにくい、あるいはまったく聞こえないといった症状のことをいいます。難聴は、外耳と中耳の障害によって音がうまく伝わらない「伝音難聴」と、内耳や脳に問題があり、音をうまく感じ取れない「感音難聴」の2種類に分けられます。

伝音難聴：中耳炎や外耳炎、耳硬化症、耳あかの詰まりなどによるもの  
感音難聴：加齢性（老人性）や突発性、騒音などによるもの

## 加齢性難聴

老化により音を感じる細胞や神経が減少し、高い音や言葉の聞き取りが悪くなります。



## 難聴の診断

聴力検査や画像検査などによって、障害されている場所や原因疾患を特定して行われます。

## きこえチェック

下記の質問でいくつ当てはまるかチェックしてみましょう

- 会話をしているときに聞き返す
- 後ろから呼びかけられると気づかないことがある
- 聞き間違いが多い
- 話し声が大きいと言われる
- 見えないところからの車の接近に気づかない
- 電子レンジなどの電子音が聞こえない
- 耳鳴りがある



1～2個	生活でお困りのことがあれば耳鼻咽喉科で相談しましょう
3～4個	耳鼻咽喉科で相談しましょう
5個以上	早めに耳鼻咽喉科の受診をおすすめします

引用・参考元：厚生労働省委託事業 補聴器販売者の技能向上研修等事業、e-ヘルスネット

チラシ作成及び問い合わせ先：吹田市高齢福祉室支援グループ 介護予防担当  
電話：06-6170-5860 FAX：06-6368-7348 令和6年1月作成